

学校・家庭・地域に**役立つ**

# 家庭教育支援 ガイドブック

家庭の教育力 **UP**↑  
地域の教育力 **UP**↑

子どものために  
保護者に伝えたい  
こんなこと

保護者に  
わかってほしい  
あんなこと

学校・公民館・  
図書館等の講座や  
講演に使える

学年・学級の  
お便りに使える

就学時健診や  
入学説明会の  
講話・指導  
資料に最適



**よしっ!これは使える!**

- 家庭でこれだけは身につけさせたい生活習慣で大切なこと
- 子どもの伸びる力を家庭から引き出す
- 学校・家庭・地域のスムーズな連携をより一層進めるために

コピー  
ダウンロード  
**OK**



# 目次

- このガイドブックをつくった理由
- 家庭への情報提供に役立ちます!
- 「生活」「こころ」「つながり」に関連し、家庭で大切にしてほしいこと
- 家庭教育講座資料
- 参加型家庭教育講座 プログラム例
- 小学校での活用事例
- 参考
  - ・家庭における人権教育
  - ・始めましょう 家庭で読書
  - ・家庭教育支援の推進に関する検討委員会報告書の概要
  - ・家庭教育支援に役立つ情報リンク集
  - ・家庭教育・子育て電話相談「すこやかコール」



# このガイドブックをつくった理由

## ✿家庭教育はとても大切

家庭教育は、父母その他の保護者が、子どもに対して行う教育です。家庭教育は、乳幼児期からの愛情による絆で結ばれた家族とのふれ合いを通じて、子どもが基本的な生活習慣・生活能力、人に対する信頼感、豊かな情操、他人に対する思いやりや善悪の判断などの基本的倫理観、自立心や自制心、社会的なマナーなどを身につける上での重要な役割を担っています。

## ✿現代の危機的な家庭教育事情

社会の急速な変化により家庭や地域の環境も変わり、今までの家庭教育をそのまま進めることが困難な家庭が多くなっています。

子育てについての不安や孤立を感じていたり、子育ての放任や過保護、虐待等により、基本的な生活習慣や社会性・自立心の育成に課題を抱えていたりする家庭もあります。



## ✿家庭教育支援の必要性

このような家庭教育の危機的な現状をふまえ、平成18年の教育基本法の改正により、下記のように新しく「家庭教育」や「学校・家庭・地域の連携協力」に関する条文が規定されました。

### ○教育基本法

(家庭教育)

第10条 父母その他の保護者は、子の教育について第一義的責任を有するものであって、生活のために必要な習慣を身に付けさせるとともに、自立心を育成し、心身の調和のとれた発達を図るよう努めるものとする。

2 国及び地方公共団体は、家庭教育の自主性を尊重しつつ、保護者に対する学習の機会及び情報の提供その他の家庭教育を支援するために必要な施策を講ずるよう努めなければならない。

(学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力)

第13条 学校、家庭及び地域住民その他の関係者は、教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚するとともに、相互の連携及び協力を努めるものとする。

また、第2期教育振興基本計画では、学習機会を提供する多様な場の一つとして、親とつながりやすい学校という場があげられています。

### ○第2期教育振興基本計画(基本施策22 豊かなつながりの中での家庭教育支援の充実)

【基本的考え方】

「…地域や学校をはじめとする豊かなつながりの中で家庭教育が行われるよう、親子の育ちを応援する学習機会を充実するとともに、コミュニティの協働による家庭教育支援を強化する。」

【主な取組】

- 家庭教育の担い手である親の学びを応援するため、子育て経験者などの地域人材を生かし、小学校等の地域の身近な場において、親が交流・相談できる拠点機能を整備するなど、家庭教育支援体制の強化に向けた取組を促進する。
- さらに、公民館、図書館等の社会教育施設における学習機会の提供のみならず、PTA等とも連携し、親とつながりやすい学校という場や、子育て広場、職場等の多様な場を活用した学習機会の拡大に向けて取組手法の普及等を行う。

「第2期教育振興基本計画(平成25年6月閣議決定)より引用」

## ＊保護者は情報を求めています

子育てに関し、保護者がほしいと思っている情報

### 第1位 「子どものしつけや教育」

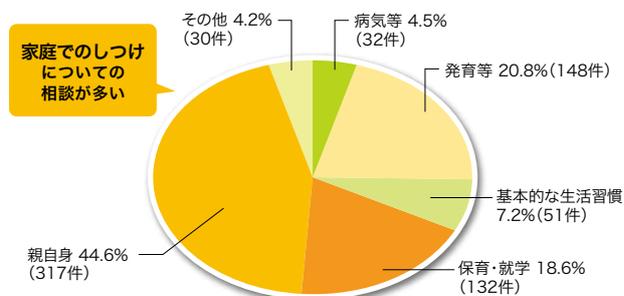
第2位「子どものけがや病気」

第3位「子どもの発育や発達」

第4位「子どもの遊び場について」

「子ども・子育て支援に関する県民ニーズ調査」(平成25年度)

相談内容(合計710件)



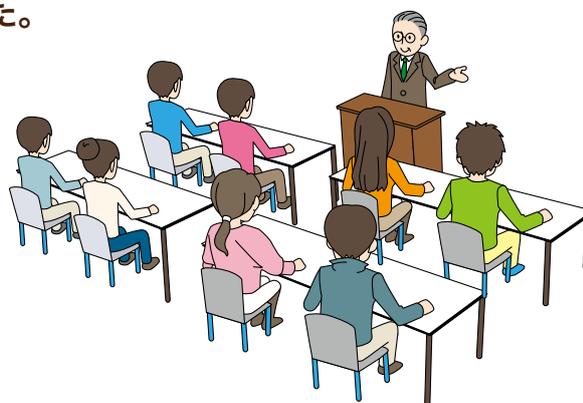
家庭教育・子育て電話相談「すこやかコール」(平成26年度)

子どもの健やかな成長のためには、保護者が家庭での教育やしつけについて学んでいく必要があります。

## ＊学校からの家庭教育に関する情報提供

日常的に子どもや保護者と接している学校では、これまでも様々な場面で、家庭教育に関する情報を提供してきました。

- ◆就学時健康診断
- ◆入学説明会などの機会を活用
- ◆学力向上
- ◆基本的な生活習慣
- ◆健康・安全
- ◆生徒指導などに関連した情報



学校と家庭が連携・協力して子どもを育てていくためにも、学校から家庭に情報提供し、共通理解を図ることが重要です。

そこで、新潟県教育委員会では、保護者への情報提供に役立つ「家庭教育支援ガイドブック」を作成しました。コピーやダウンロードをして、手軽に配付できる保護者向けの啓発資料のほか、参加型家庭教育講座プログラム例や小学校での活用事例を掲載しています。

PTA等と連携した活動はもちろん、様々な機会でも、ぜひご活用ください。

[新潟県 家庭教育支援ガイドブック](#) [検索](#)

このガイドブックが保護者とのより良い信頼関係を築いていくきっかけとなり、すべての保護者の学びにつながることを期待しています。

# 家庭への情報提供に役立ちます！

## 多様な活用場面で

こんな学校現場からの声に応えます

あいさつ運動を学校だけでなく、  
家庭や地域に広げたい。

▶資料No. **3**

朝から眠そうに  
している子がいて心配。  
おうちの方に伝える  
いい情報はないかな。

▶資料No. **1・2**

子どもの自己肯定感や  
自己有用感を育むために  
保護者に情報提供したい。

▶資料No. **6・7・  
8・9・10**

入学を前に保護者との間で  
共通理解を図り  
子どもの成長を支えたい。

▶資料No. **2・4・9・11**  
▶参加型家庭教育講座  
プログラム例

保護者から学習参観や  
各行事に参加してもらい  
子どもの様子をもっと見てほしい。

▶資料No. **15**  
▶参加型家庭教育講座  
プログラム例

春・夏・秋・冬  
いつでも使えます！



コピー  
ダウンロード  
OK

組み合わせも自由自在！様々な機会に活用できます

例えば

学習  
強化週間

▶資料No. **5**

ノーメディア  
週間

▶資料No. **13**

いじめ  
見逃しゼロ  
強化月間

▶資料No. **12・8**

長期  
休業の前

▶資料No. **9・10**

PTA行事

▶資料No. **14・15**

生活リズム  
向上週間

▶資料No. **2**

# 「生活」「こころ」「つながり」に関連し 家庭で大切にしてほしいこと

1 睡眠ってこんなに大切



2 規則正しい生活リズムをつくるポイント



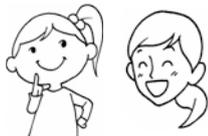
3 あいさつで築く人間関係



4 素直に言えるようになりたい  
大事な言葉「ありがとう」「ごめんなさい」



5 子どものやる気をサポート



6 自立した子を育てる  
親のかかわり方



7 話の聞き方で心をつなぐ



8 話を聞くときのポイント



9 ほめることの効果



10 お手伝いができる子に



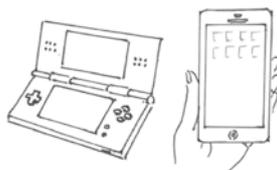
11 子育てで大事なことは、  
さじ加減



12 子どもと一緒に  
いじめについて考えてみましょう



13 子どもに身近な  
インターネット



14 見てますよ聞いてますよ



15 豊かなつながりの中で親も子も育つ

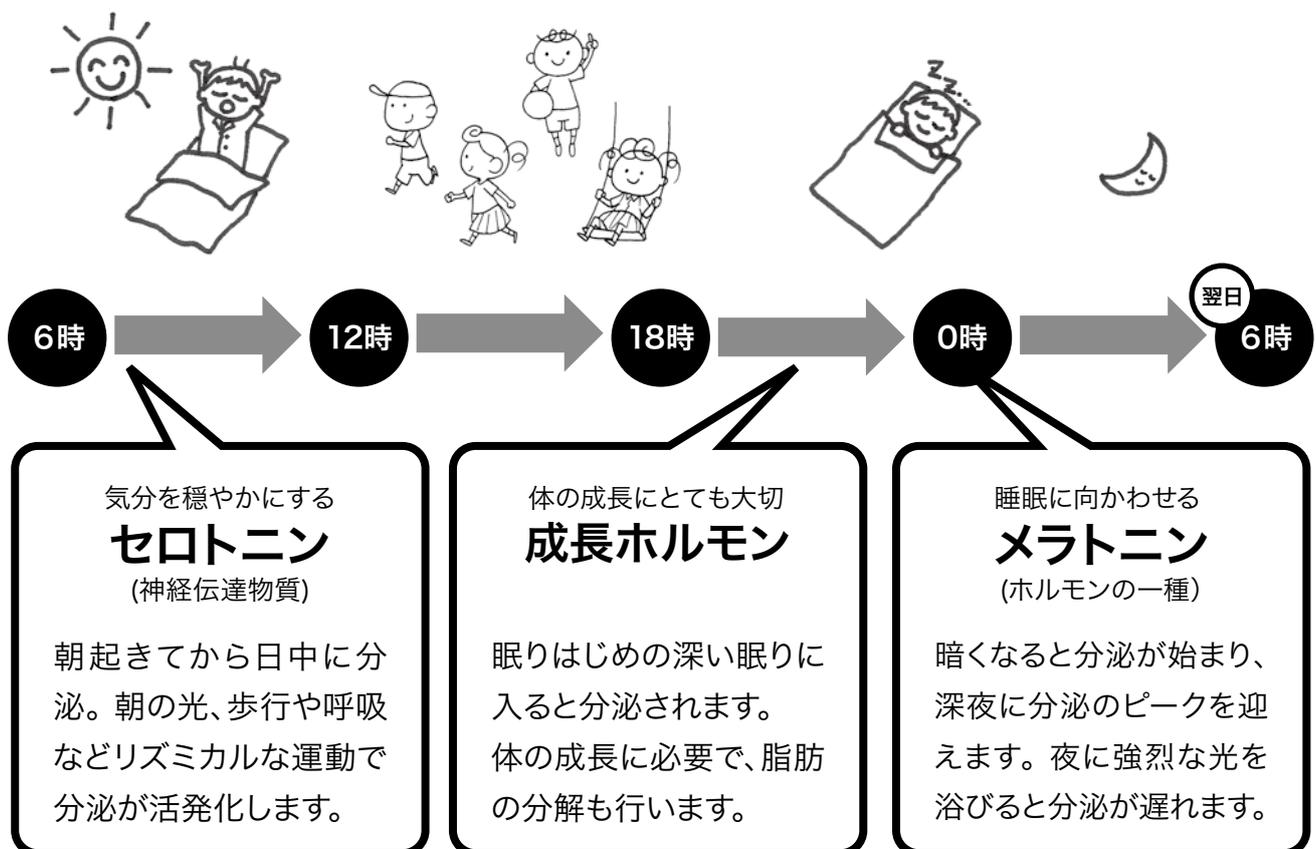
## 睡眠ってこんなに大切

子どもにとって睡眠は、心身を休息させて疲れをとると同時に体をつくり、脳を発達させる大切な働きをもっています。

### 眠っている間にこんなことが起きています



- 小学生の睡眠時間は低学年で9～10時間、高学年では8～9時間が理想といわれています
- 睡眠時間だけでなく、21～22時までに就寝することも大切です
- すぐに眠れなくても、暗くして布団に入るなどの眠る準備を心がけましょう



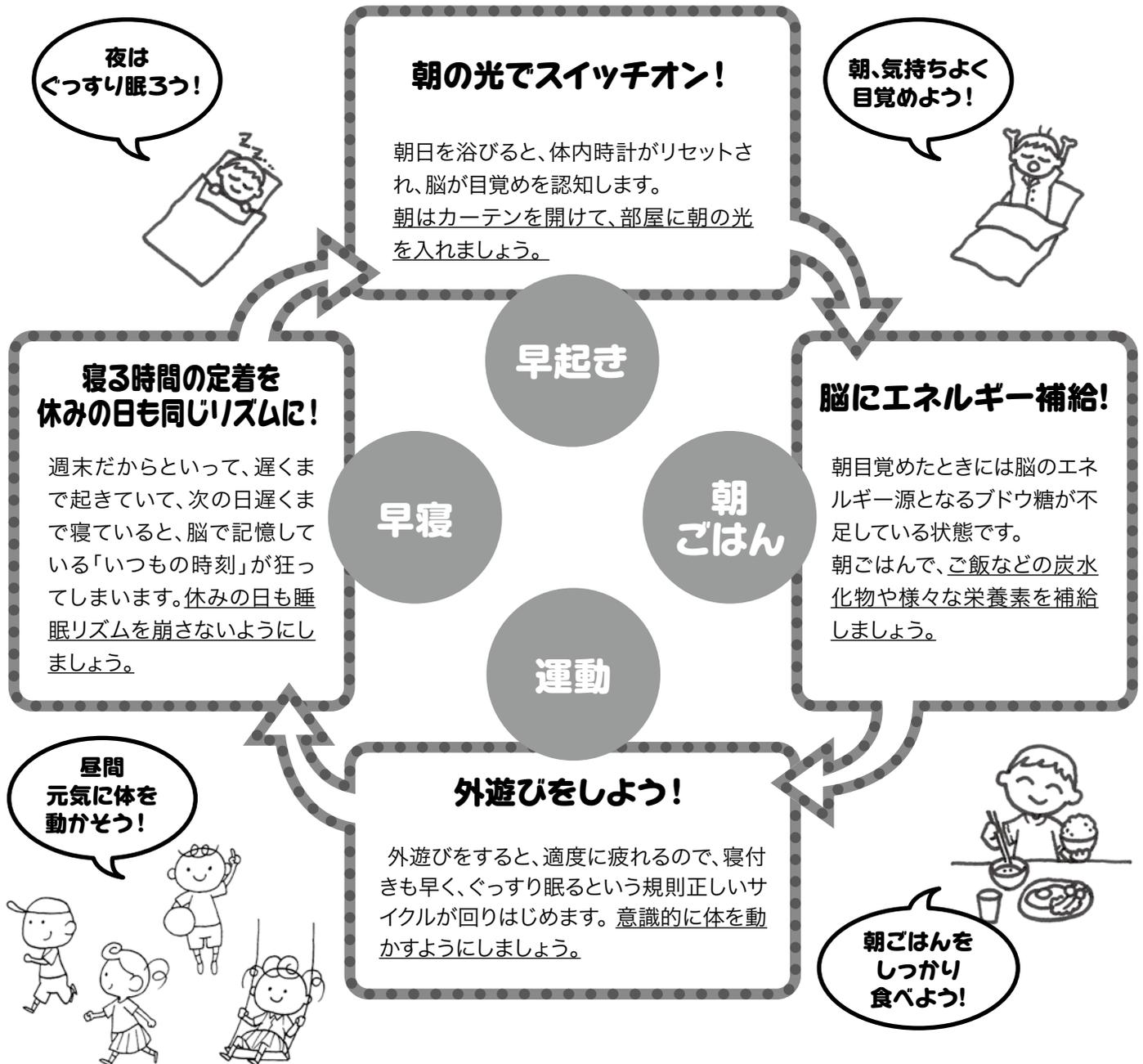
寝不足や不規則な睡眠リズムは、成長に欠かせないホルモンの分泌に影響を与えてしまい、心身の健康を損なう恐れがあるといわれています

### 睡眠によって心も体もつくられます

# 規則正しい生活リズムをつくるポイント

子どもの生活習慣の乱れが学習意欲、気力、体力の低下の要因の一つとして指摘されています。

子どもたちが健やかに成長していくためには、規則正しい生活リズムを身に付けることが大切です。



**生活リズムを整えることは、子どもたちの心と体の「元気」につながります**

# あいさつで築く人間関係

## あいさつができるようになるにはこんな順序があります



おはよう  
ございます



おはよう、  
いつてらっしゃい



おはよう、  
いつも元気だね

1

まずは家族の間で  
あいさつが自然にできるように  
しましょう

3

お手本を示しながら、  
子どもと一緒にあいさつが  
できたときは、しっかり  
ほめてあげましょう

2

地域では、親があいさつの  
お手本を示しましょう

4

子どもが1人でもあいさつ  
できるようになります

### あいさつでつながる心

- 知り合うきっかけになる
- 気持ちがよくなる
- 体の調子や機嫌がわかる
- 話しやすくなる

### 心をつなぐいろんな言葉

- ★さようなら
- ★いただきます
- ★ごちそうさまでした
- ★おやすみなさい
- ★ありがとう
- ★ごめんなさい

## 防犯上の効果あり

- ① きちんとあいさつできる子は  
声を出せる子なので、  
不審者に狙われにくいと  
言われています



- ② あいさつをすることで近所の人  
がどこの子かわかり、何かあったときに  
情報収集がしやすくなります



〇〇ちゃんは  
友だちと3時頃に  
ここを通ったわよ

言うにはちょっと勇気がいるけれど、言われると心が温かくなったり、緊張がホッと緩んだりする思いやりの言葉があります。

## 素直に言えるようになりたい大事な言葉 「ありがとう」「ごめんなさい」



日頃から耳にしない言葉は、  
うまく使えるようには  
なりません

- ★「ありがとう」を言う場面はたくさんあります  
親がお手本を見せましょう
- ★家族や夫婦で、ささいなことでも日頃から「ありがとう」と言う習慣をつけましょう

## 家庭で、日常的に耳にすることで、 どんなときにどんなふうに使うのかを覚えます

- ★「ごめんなさい」も大人のお手本が大切です
- ★謝罪を受け入れる姿も見せましょう

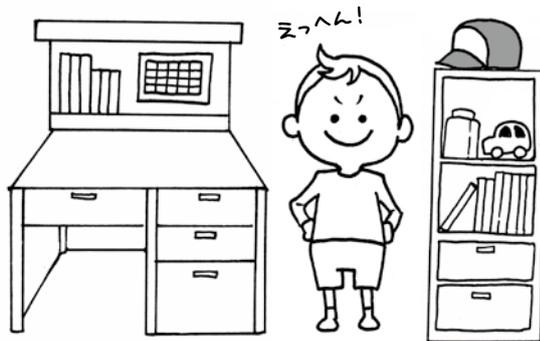


## 心を込めて言えると相手の心に伝わります

## 子どものやる気をサポート

「良い学びは良い環境から」と言われるように、子どもが生活や学習の習慣を身に付けていくためには、子どものやる気を育てることが大切です。

### 活動する場所の環境づくり



**自分の持ち物を  
自分で整理整頓できるようになると…**

- 使いたい物がすぐに用意できる
  - 始めようと思ったときにすぐに取りかかれる
  - 学校へ行く準備がスムーズにできる
  - 忘れ物が少なくなる
  - 物を大切にする
- など

**はじめは、親と一緒に片付け、徐々に一人でできるようにしましょう**

### やる気を育てる心の環境づくり

例えば、毎日の宿題をする時、どんな声をかけたらいいでしょう。



**子どもに考えさせましょう。自分で決めた方が、集中しやすく、はかどります**

生活や学習の習慣は、小さい頃からの積み重ねによって身に付きます。

子どもの小さながんばりを見逃さず、その時、ほめる言葉や励ましの言葉をかけながら、長い目で見守り、根気よくサポートしていきましょう。

### 「やらされてる感」より「やっている感」

## 自立した子を育てる 親のかかわり方



### 日頃から心がけておきたいこと

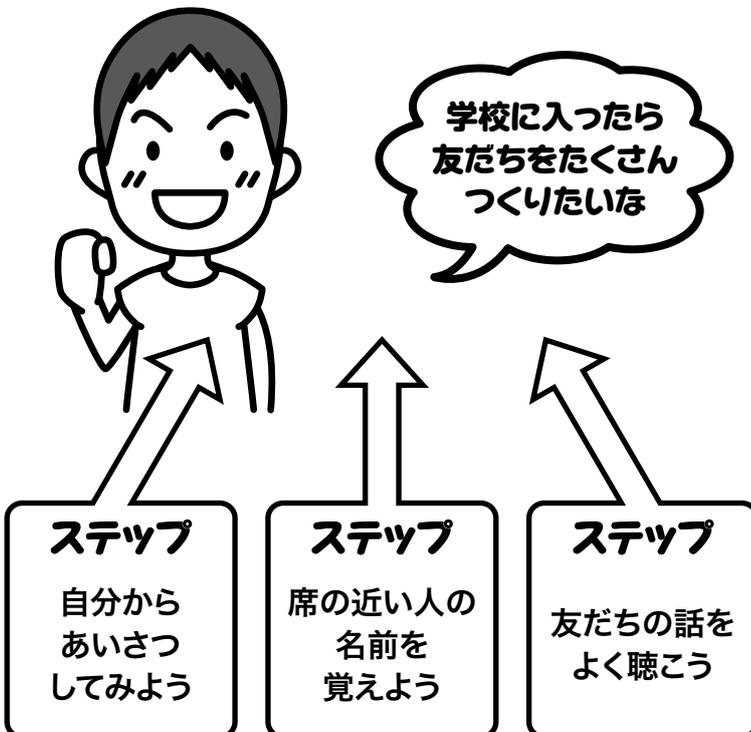


- ★子どもの話をよく聞いて、信頼関係を築きましょう
- ★当たり前のことやできたことをほめて、自信を持たせましょう

自分からやろうと決めたことを、**親が見守り、励ます姿勢が大事です**

子どもが自分から「～したい」と言ったときが、**伸びるチャンスです**

### 例えばこんな場合



### 親ができる手助け



- ① どうしたらできるようになるか、どんなことをがんばるか、相談にのって一緒に考える。

#### 具体的なステップを考える

- ② 自分にできそうなものを子ども自身に選ばせる。

#### 自分でやろうと思わせることがポイント

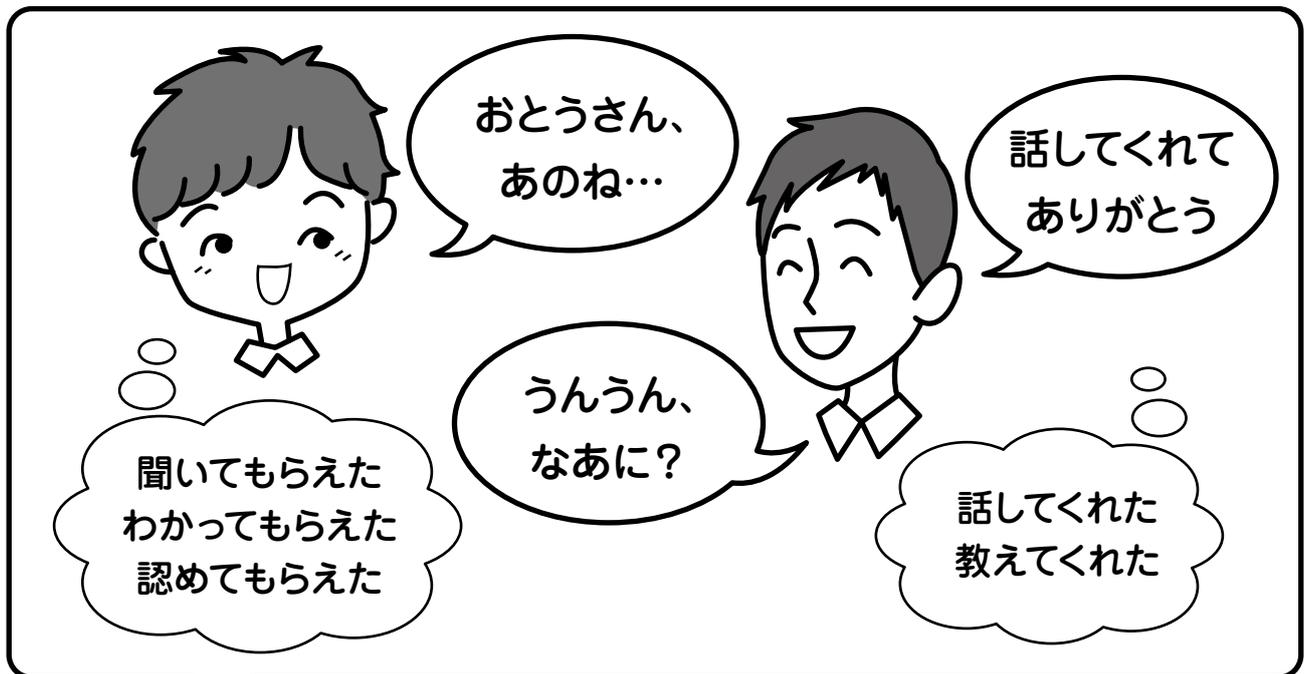
- ③ ステップが少しでもできたら、ほめて励ます。

#### 励ますことが、またがんばろうという意欲につながる

- ④ 決めたことを達成できたら、がんばった子ども自身をほめる。

親がさせるのではなく  
子どもの「自分でできた!」を大切にする

## 話の聞き方で心をつなぐ



聞いてもらうことで  
安心感を持ち、もっと  
話せるようになります

わかってもらえることで  
相手に対する  
信頼感が育ちます

会話を通して親子の  
信頼関係が築けます

### ＊聞くときのポイント

- ① 忙しくても手を止めて顔を見て聞く
- ② 話の途中で口を挟まず、最後まで聞く
- ③ 話を聞いたら、まずは気持ちを受け止めて共感する
- ④ 親の価値観を押し付けない
- ⑤ 伝えたいことは「私なら～するよ」  
「私は～がいいと思うよ」と私(I)メッセージで伝える

「聞いてもらえた」「話してくれた」の  
気持ちを大切にした  
会話を心がけましょう

言葉のボールをキャッチして、  
心もしっかり受け止めましょう



怒っているときの言葉は  
キャッチできません



# 話を聞くときのポイント

子どもが話しかけてきたときは、一旦手を止めて聞きましょう

- 話の途中で口を挟まず、最後まで聞く
- 話を聞いたら、まずは気持ちを受け止めて共感する
- 親の価値観を押しつけない
- 言いたいことは私(I)メッセージで伝える
- あなた(You)メッセージにならないようにしましょう

## でも、どうしても手が離せないときは...

- 作業の途中で子どもが話しかけてきたら...
- 話を聞きたいという気持ちが伝わるように
- 何の話をしたのかだけは聞いておきましょう
- 作業の後には必ずしっかり聞きましょう

聞いてもらっていると、しっかり聞くことができます

家庭での会話がいろいろな場面に生きてきます

## ほめることの効果

どんなふうに  
ほめたらいいのかしら  
悪いところが  
目についちゃって..



こんなふうに思うことはありませんか？

### ほめる内容は当たり前のことでもいいのです

- ① 今できていることを認めてほめる
- ② その子自身の過去と比べて、伸びたことを見つけてほめる

今日のあいさつは  
元気でいいね

いつもより早く  
起きられたね

ちょっとしたこと  
でもいいのね



大事なことはその子自身を認めてほめることです。子どもの「すごい」「さすが」「すばらしい」をたくさん見つけて、言葉で伝えましょう。

### ほめられることによって心に変化が生まれます

うれしい!



また、  
がんばろう!

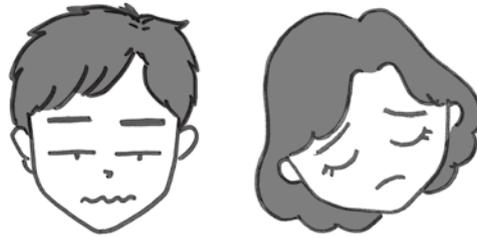
もっと  
できるかも!

- ➡ 気持ちがポジティブになる
- ➡ 前向きに物事に取り組める
- ➡ 「挑戦しよう」という意欲がもてる
- ➡ 自分は大切な存在だと思える
- ➡ 自分に自信がもてる
- ➡ 学習が身につけやすくなる

自信をもって物事に取り組める自立した子に

# お手伝いができる子に

うちの子は  
遊んでばかりで、  
家の手伝いなんて  
してくれない



子どもにさせると  
時間がかかって面倒で、  
自分でした方が  
早いし…

そうは言ってみるものの…

## 将来のことを考えるといろいろできるようになってほしい

○ お子さんに「できそうなお手伝い」「させたいお手伝い」は何ですか。書き出してみましょう。○

※お手伝いは、家族の一員としてみんなに関わることを考えて選びましょう。

## お手伝い大作戦

☆ていねいに教える



☆一言添えて、ほめる

☆家族に知らせていっぱいほめる

うまくできなくてイライラすることもあります。でも失敗を叱るよりも、できた所まではほめて、次はどうしたらできるようになるかを一緒に考えることが成長につながります。

### お手伝いの極意 その1

簡単なことから始めて、たくさんほめてできることを増やしていく。

### お手伝いの極意 その2

初めてのことは、教える人に時間と気持ちの余裕があるときに挑戦する。

### お手伝いの極意 その3

できるようになったことは任せろ。自分からしてくれるように頼りにする。

## 子育てで大事なことは、さじ加減

子育てでは  
「過保護はよくない」と  
言うけれど、  
どんなことに  
気をつけたらいいの？



### 子育てで大事にしたい4つの要素

#### 世話

- ・世話をすることは乳幼児期には重要であるが、その子の成長に合わせて徐々に手を離し「自分のことは自分でできる」ように自立させていくことが大切
- ・お手本を見せながら、ていねいに教えてできることを増やす。失敗しても責めずに繰り返し教え、できたらほめることで自信をもたせることが必要

#### 指示

- ・親は先回りして指示を出してしまいがちだが、失敗することも成長には必要と見守る場面も大切
- ・指示されて行動することが多いと、自分で考えて行動する力が育ちにくい
- ・子どもは指示されて行動して失敗すると、自分の責任ではなく、ほかの人のせいにするようになる

#### 授与

- ・欲しい物が本当に必要なものか、一緒に考えることが大切
- ・欲しがるものを何でも与えると、感謝する気持ちや物のありがたさや大切にしている気持ちが育ちにくい
- ・我慢することも心を成長させるためには必要

#### 受容

- ・その子自身を認め受容することが大切
- ・日頃の子どもの様子をよく見て、その子自身の思いや成長を受容し、ほかの人の迷惑を考えない自己中心的な行動は許さないき然とした態度をとることが重要

### 子どもに合わせたさじ加減で上手に子育て

# 子どもと一緒に、いじめについて考えてみましょう

## 1 いじめは大きな社会問題

いじめは、どの子どもにも、どの学校でも起こりうる問題です

具体的ないじめの例

- ・冷やかしゃからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる
- ・仲間はずれ、集団による無視をされる
- ・軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする
- ・金品を隠されたり、壊されたり、捨てられたりする
- ・嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたりさせられたりする
- ・パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷や嫌なことをされる など

### いじめ防止対策推進法が施行されました(平成25年9月)

いじめの防止、早期発見及び対処のための対策を、行政、学校、地域住民、家庭その他の関係者の連携の下、総合的かつ効果的に推進することを目的として、法律で改めて定められました。

(いじめの禁止) 第4条 児童等は、いじめを行ってはならない。

◇保護者に対しては次のようなことが定められています

- 児童等がいじめを行うことのないよう、規範意識を養うための指導その他の必要な指導を行うよう努める
- 児童等がいじめを受けた場合には、適切にいじめから保護する
- (国・県・市町村や)学校が講ずるいじめの防止等のための措置に協力するよう努める



## 2 いじめについて、家庭で具体的に話し合みましょう

日頃から、親子の会話を大切に、何でも話せる関係を築きましょう。いじめについても話題にして、子どもの様子や考えを把握しておきましょう。また、どんな理由であってもいじめは絶対に許されない行為であることを子どもに教えましょう。

### 「遊びや冗談のつもりだった」は通用しない

ふざけてやったことでも、相手がいじめと感じたら、それはいじめです。遊びや冗談のつもりが、ときには相手の命にかかわることにつながる場合があります。

### いじめられているのかも…と感じたら

子どもの日頃の様子をよく見て、一人で抱え込まないように声をかけて、話し合ったり、学校に相談したりしましょう。下記の電話相談もあります。

- 24時間いじめ相談ダイヤル(毎日24時間)

TEL 0570-0-78310

- 県立教育センター いじめ・不登校等悩み事相談テレフォン

TEL 025-263-4737(平日9:10~16:00)

- 新潟県いじめ相談電話(毎日24時間)

TEL 025-526-9378(上越)

TEL 0258-35-3930(中越)

TEL 025-231-8359(下越)



学校・家庭・地域が連携して子どもを見守り、  
子どもたちの社会性を育みましょう。  
新潟県では「いじめ見逃しゼロ県民運動」を  
推進しています。

# 子どもに身近なインターネット

子どものまわりには、インターネットにつながる端末がたくさんあります。学習や生活に役立つ情報が簡単に得られる反面、携帯依存症やアクセスによる問題など大きな社会問題に発展してしまう場合があります。



携帯型ゲーム機



スマートフォン  
携帯電話等



コンピュータ  
タブレットなど



音楽プレーヤー

## 子どもが陥りやすいトラブル

ネット上での  
書き込み等によるいじめ

高額な  
利用料請求書

不審者からの  
誘い出し

個人情報の  
流出

子どもたちが将来、常に正しく安全にインターネットを使えるようにするために、子どもの発達に合わせたインターネット環境を整えましょう。

### 家庭で設定できる ゲーム機などの機能制限

ゲームでインターネットを見たり、知らない人と通信することなどを制限できる機能があります(ゲーム機によって異なります)

### 電話会社で設定できる 接続機能の制限(フィルタリング)

スマートフォンや携帯電話などでインターネットへの接続や閲覧できるページを制限できる機能があります

## インターネットを適切に利用するための 我が家のルールを決めておきましょう。

### 例えば

- 食事の時間にはしない
- 夜は21時までにする
- 1日〇時間以内にする
- 充電器は居間に置く
- パスワードは共有するか親に知らせる
- メールやラインなどで人の悪口などは打ち込まない
- 知らない人からのメールは削除する
- 使用できない場所では使わない(マナーモードを活用する)
- 有料アプリ有料サイトの利用は親と相談する
- インターネットで知り合った人とは会わない
- ルールを守れないときは、一時利用禁止にする

**ルールはたくさん考えられますが、親が押しつけて決めるのではなく、家庭や子どもの状況に応じて子どもと相談して決めましょう**

# 見てますよ 聞いてますよ



## 子どもは親の鏡

上記の例のように親が友だちを悪く言えば、子どもも友だちのことを悪く言うことを当然に感じてしまうことは少なくありません。それは友だちだけでなく、先生や近所の人でも同じです。

日頃から、人のよいところを見つけて、認めるプラスの言葉を使うように親が心がける事で、子どもも自然と人のよいところを見つけられるようになります。そして人との友好的な関係を築く力を育むことにもつながるでしょう。

**子どもの前では、人のことを批判する言葉は慎みましょう**

# 豊かなつながりの中で親も子も育つ

小学生になると、子どもの活動の場が広がるとともに、保護者も学校行事やPTA活動、地域活動などに参加する機会が増えてきます。

子どもは家庭の外でいろいろな経験をすることにより、社会のルールやマナーを学んでいきます。

親子で積極的にいろいろな活動に参加しましょう。

## またより

学校だより、学年だより、保健だより、給食だより及び回覧板などは、役立つ情報満載です。ぜひ目を通して、学校や地域の情報を仕入れ、生かしましょう。

## 学校行事

運動会や発表会などのほか学校や地域の特色を生かした様々な行事があります。子どもの頑張りを見届け、その成長を確認する機会でもあります。

## 学習参観

学習の様子、子どもの特徴、担任や友達との人間関係、学級の雰囲気などを知ることができます。参観後に、他の保護者と情報交換するのもいいですね。

## PTA活動

PTAは、保護者と教職員が協力して、子どもたちの健全育成を図ることを目的としています。全体の行事や活動のほか、学年(学級)PTAなどもあります。親子のふれあいを楽しんだり、子どもの現状や接し方を学んだり、様々な取組があります。

## 地域行事

子ども会や自治会(町内会)の行事や奉仕活動等、学校や家庭では味わえない、豊かな体験の機会が数多くあります。親子で楽しく参加しましょう。

## ボランティア

学校によっては、屋内外の環境整備や学習支援・補助、図書館の整理・読み聞かせ、交通安全指導などに、保護者ボランティアを募集することがあります。できる範囲で、参加・協力してみるのもいいですね。

## 子どもの意外な一面も見えてくる!

いろいろな活動に参加することで、家庭の外での子どもの様子を知ることができます。保護者自身も、交流を深め、よい人間関係を築いて、子育てに活かしましょう。

● 参加型家庭教育講座プログラム例

● 小学校での活用事例



# 参加型家庭教育講座 プログラム例

**実施時期** 就学時健診時(10月中旬～11月)

**実施場所** 教室、多目的教室など(グループワークができる環境)

**準備物** ホワイトボードまたは黒板、付せん、付せんを貼る大きめの紙(B4またはA3)

	プログラム内容
5分	<h2>アイスブレイキング</h2> <ul style="list-style-type: none"><li>●子どもの普段の生活について質問し、当てはまるものに挙手してもらう。</li></ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"><li>●講座内容について話す。</li><li>●5～6人のグループをつくる。</li></ul>
40分 ↓ 45分	<h2>ワーク「心配なこと、なあに？」</h2> <h3>1.グループ内で情報交換</h3> <ul style="list-style-type: none"><li>●入学するにあたって、心配していることや悩み事を各自で付せんに書き込む。</li><li>●自己紹介を兼ねて、自分が書いた内容について話しながら1枚の紙(B4かA3)に貼る。</li><li>●同じ内容のものをグルーピングする。</li><li>●グループ内で意見を共有する。</li></ul> <h3>2.意見発表・グループごとに、出た意見を紹介する</h3> <ul style="list-style-type: none"><li>●付せんを貼った紙を黒板に貼り、全体で意見を共有する。</li><li>●出された感想について学校側がコメントしたり情報を提供したりする。</li></ul>
10分	<h2>まとめ</h2> <ul style="list-style-type: none"><li>●子育ての大事なポイントについて、ガイドブックを活用して説明する。</li><li>●心配なことがあればいつでも相談してもらいたいということを伝える。</li></ul>

## ポイント

●いろいろな子どもがいることを確認する

●文字で明示する

●心配事や悩み事を積極的に出してもらう

ガイドブックから1～2項目取り上げる。  
学校や地域の実情にあわせた内容について活用するのが望ましい。

保護者と学校が連携して子どもたちの育ちを支援できるような関係をつくる。

この講座は、参加者の「生の声」を引き出すことが大切です。  
気軽に発言できるように、クイズなどで場を和ませるとよいでしょう。

全員が情報を共有できるためにも、グループの人数は、多すぎないのがよいでしょう。

付せんに自分の意見を書いてもらうことで参加意識が高められます。  
また、他の人と同じような悩み事があれば、「悩みは自分だけではない」ことからの安心感が芽生えます。

付せんの数を決める必要はありません。  
時間や保護者の様子を見て2～3枚程度に決めておくとういでしょう。  
また、情報交換の様子を見て、場合によっては助言してみてください。

出た意見について、学校生活に直接関係すること(学習、登下校、給食など)については、その場で学校側が回答すると保護者にも安心感が生まれます。

# 小学校での活用事例 その1

## 就学時健康診断の機会を利用(羽生田小学校) (内科検診に保護者が付き添うタイプ)

グループごとに順番に呼ばれて受診。  
その間の待ち時間と保護者全員が揃ってからの  
30分間を使って実施

平成25年 10月30日(水)

会 場： ランチルーム

対象者： 47人

13:55～ 校長あいさつ

14:00～ 健康診断及び全体説明会(並行実施)

Aグループ	Bグループ	Cグループ	Dグループ	Eグループ
健診		学校説明		
		グループワーク 「心配なことなあに？」		
学校説明		健診		健診
グループワーク 「心配なことなあに？」				
		グループワーク続き		
15:10～ 保護者全員が集合 「家庭教育講座」(30分間程度)				

## 健診の順番を待っている間に、 グループワークを実施

- 付せんに入学にあたって不安なことや心配なことを書き出す。
- 一人ずつ不安なことを言いながら付せんを貼っていく。(例えば、「今までバス登園だったから、一人で学校まで無事に歩いて行けるか心配。」など)
- 終わったところは、付せんを書いたことやその他子育てについて自由に話し合う。



校長先生のあいさつ  
子どもたちも静かに聞いていました。



付せんに書き込んでいます。このころから  
保護者の表情が柔らかくなってきました。



グループワークで、子育てについて  
話し合った後なので、みなさん、  
集中して講座を聞いていました。



健診の順番を待っている保護者の方にグループワークの説明をしました。



どんなことを不安に思っているのかな？先生も気になるところです。



最後に、保護者と学校が一緒になって子どもたちの育ちを支えていけるような関係を築いていくことが大事であることを伝えました。

## 健診の順番待ちの時間を有効に活用

羽生田小学校では、内科検診に保護者が付き添うことから、自分のグループが呼ばれるまで、待っている時間がありました。保護者全員がそろうのは、最初と最後だけでした。そこで、小刻みに空いた時間を有効に活用するために、グループごとの個別の待ち時間を利用してグループワークを実施しました。

保護者全員がそろってからの講座は、30分程度のまとまった時間を確保し、ポイントを絞ってお話しました。

いきなりの付せんを使ってのグループワークに対する保護者の方々の反応が心配されましたが、みなさん、難なく作業をしていました。

特に、付せんを書くことで、必ずすべての保護者が声を出すので、保護者同士の話しやすい雰囲気づくりができました。

次に入学説明会などで会ったときに、「あ、こんにちは」といえるつながりができました。

### 使った資料はこれ！

「ほめることの効果」

「話の聞き方で心をつなぐ」

「子育てで大事なことは、さじ加減」

学校の意向や地域性などを考慮して選びました。

## 小学校での活用事例 その2

### 就学時健康診断の機会を活用(八千浦小学校) (内科検診に保護者が付き添わないタイプ)

保護者全員が揃っている60分間を使って実施

平成25年 11月18日(月)

会場：視聴覚室

対象者：32人

14:30～15:30 「家庭教育講座」

14:30～ ●クイズ「あてはまるのは？」

・子どもについていくつか質問をして、当てはまるものに挙手してもらう

14:40～ ●ワーク1「心配なことなあに？」

・入学に向けて悩みや不安なことを付せんに書き込み同じグループで1枚(B4)の紙に貼りながら情報交換

●資料を使って話を聞くことの大切さを伝える

15:00～ ●ワーク2「ほめる言葉」

・ほめる言葉をできるだけ多く書き出し、グループで共有する

15:10～ ●資料を使って子育ての大事なポイントを説明



かなり緊張した雰囲気でしたが…



ほめる言葉「すごいね!」「できたね!」「やったね!」「いいね!」…他には?

### 講座までの流れ

#### 学校と講師の日程調整

- 打合せの日程確認
- 当日の日程確認  
(場所や人数等)

#### 学校との打合せ

- 学校の様子や保護者の傾向
- 学校が保護者に伝えて欲しい内容
- 会場の準備等

#### 講師から

- 学習プロ
- 資料の送
- 準備物の



グループになっての話し合いが始まると、  
だんだん盛り上がってきます。



保護者の方が、どのような事を不安に思っているのか傾向が一目で分かります。

## 2つのワークで飽きずに参加でき、 距離も近くなります

八千浦小学校では、60分間のまとまった時間を確保していただいたので、2つのグループワークを取り入れました。「入学にあたって不安なこと」と「ほめる言葉」です。

ほめる言葉をできるだけたくさん書き出してもらいました。中には15個以上書いた人も。書いた言葉をグループで見せ合うことで、たくさんの褒め言葉をもち帰っていただき、家庭で使ってもらうのがねらいです。

時間的に余裕があるため、話し合いの時間も十分とることができました。

### 使った資料はこれ!

「子どものやる気をサポート」

「ほめることの効果」

「話の聞き方で心をつなぐ」

「子育てで大事なことは、さじ加減」

資料を拡大して、黒板に貼るという使い方もできます。

### 学校への連絡

グラムの送付  
付  
確認等

### 講座の実施

詳しくは上記参照

### 講座についての反省・協議

- 保護者の様子や反応について
- 資料や講座の進行について
- 学校からの感想や意見、課題

## 小学校での活用事例 その3

### 学習参観の機会を活用(村上南小学校)

平成25年 7月11日(木)

	学習参観
14:30～	校長によるミニ家庭教育学級 ↑ ココの時間を活用!
14:45～	学年懇談会



### 学校評価説明会の機会を活用(本田小学校)

平成25年 9月20日(金)

13:50～	授業参観
14:45～	学校評価説明会
	●校長 あいさつ
	●取組の報告(知育・徳育・体育) ●教頭 その他の報告、事務連絡
15:45～	校長による家庭教育のお話 ↑ ココの時間を活用!
16:15～	学年・学級懇談会



### 夏休み前の学年懇談会の機会を活用(出雲崎小学校)

平成25年 7月10日(水)

13:55～	授業参観
14:55～	学年懇談会(1,2年生)
	学級担任挨拶
	●子どもたちの様子
	●夏休みの過ごし方 ↑ ココの時間を活用!
	●夏休みの課題について
	●懇談



●兄弟姉妹等もあるなか、1・2年保護者の6割程度が家庭教育学級に参加しました。家庭教育の講演会では、参加者を集めるのに苦労しますが、このようなミニ家庭教育学級を時々位置づけることで、継続的に学習の機会を提供していくことができます。

●4つの資料を使ったことで、夏休み前の子どもたちの生活や親子関係を考える良いきっかけとなりました。

●基本的な生活習慣や人間関係など様々な面から家庭教育支援を考えるような機会となりました。

●全家庭数の半数以上が参加しました。学校評価の説明会后に続けたことで、学校で取り組んできた「あいさつ」や「就寝時刻」などについて、学校と家庭の共通理解を図る場となりました。

●子どもと過ごす時間が増える夏休みを前に、子どもに自信をもたせ自立を促す親の関わり方について、「ほめることの効果」の資料を活用して、担任自身の経験をまじえながら分かりやすく説明することができました。

●そのままコピーして使える手軽さから、「お手伝いができる子に」、「生活のリズムをつくるポイント」、「睡眠ってこんなに大切」の資料も使いながら、限られた時間を有効に活用して、保護者への協力を呼び掛けました。

## ガイドブックをそのまま印刷し 配付資料として活用!

### 使った資料はこれ!

「正しい生活リズムをつくるポイント」  
「睡眠ってこんなに大切」  
「子育てで大事なことは、さじ加減」  
「あいさつで築く人間関係」

### 使った資料はこれ!

「睡眠ってこんなに大切」  
「正しい生活リズムをつくるポイント」  
「ほめることの効果」  
「あいさつで築く人間関係」

### 使った資料はこれ!

「ほめることの効果」  
「お手伝いができる子に」  
「正しい生活リズムをつくるポイント」  
「睡眠ってこんなに大切」

# 小学校での活用事例 その4

## 就学時健康診断の機会を活用 (明治小学校)

平成25年 11月8日(金)

14:50~15:30

保護者全体会の中で活用

- ① あいさつ(校長)
- ② 入学前にお願いしたいこと(教務主任)



## 個別懇談の機会を活用 (明治小学校)

平成25年 11月26日(火)、  
27日(水)、28日(木)

14:00~16:45

個別懇談の時間を活用

それぞれの学年ごとに資料を選択し、  
個別懇談会の資料として配付(各担任)

## 学校だよりに活用 (和島小学校)

学校だよりの最終ページに「家庭教育支援ガイドブック」の資料を掲載しています。

資料No.1から順にシリーズで連載していく予定です。

1面



2面



## 保護者の不安を軽減する

子どもへの接し方が具体的に示されているので、分かりやすく伝わったようです。

また、資料を活用することで、学校の取組を紹介する機会にもなりました。

## 担任が必要な資料を選択する

生活アンケートや児童の実態から各担任が「より定着させたい生活習慣」や保護者と「共通理解が必要な内容」の資料を配付しました。

また、必要に応じて、面談中に資料をもとにした話を進めることもありました。これらの取組を通して、担任の思いや児童の課題が明確に保護者に伝わるというよさが見られました。

## ガイドブックをそのまま印刷し 配布資料として活用!

### 使った資料はこれ!

来年度入学する児童の保護者に  
「あいさつで築く人間関係」  
「ほめることの効果」

### 使った資料はこれ!

1年生では、  
「子育てで大事なことはさじ加減」。  
6年生では、「睡眠ってこんなに大切」  
「ほめることの効果」など、  
それぞれの学年で担任が資料を  
選択しました。

3面



4面



学校だよりは、全戸配付なので、  
入学前の子どもがいる家庭にも  
家庭教育の情報を届けることが  
できます。

# 家庭における人権教育

## 家庭における人権教育の推進

子ども一人ひとりがかげがえのない存在として尊重し、個性を生かすとともに、他人への思いやり、命や人権を尊重する豊かな心を育むことが大切です。

### ★愛情と厳しさをもって育てましょう

ささいなことでも「できた」ことや努力したことなど、子どものよさを見つけ、愛情をもって大いにほめましょう。そして、してはいけないことをしたときは厳しさも必要です。



「ほめることの効果」(P14)  
「子育てで大事なことは、さじ加減」(P16)もご覧ください。

### ★子どもの話を聞きましょう

大人が子どもの話に耳を傾けることは、子どもを認めることにつながります。子どもは愛情を感じ、家庭の中での存在感を実感していきます。



「話の聞き方で心をつなぐ」(P12)  
「話を聞くときのポイント」(P13)もご覧ください。

### ★日常の生活を通して身につけさせましょう

家庭において、しつけや道徳観、正義感や人を思いやる心などを日常の生活を通して子どもに身につけさせましょう。

また、子どもが学んだことを共通の話題にするなど、学びを共有していくことも大切です。



「子どもと一緒に、いじめについて考えてみましょう」(P17)もご覧ください。



## 人を差別するような子にはなってほしくない

親は、子どもがいじめに加わったり、他人を差別し傷つけていることに気づいたときには、それが人間として恥ずかしい行いであることを教える責任があります。

その際、理屈であれこれ言うより、子どもを愛していること、すてきな人に育ててほしいこと、弱い者をいじめたり差別したりするのを見てショックだったこと、人が傷つくのを喜ぶことに怒りを感じたこと、二度としてほしくないこと、など親としてのほんとうの気持ちを伝える努力をしましょう。

また、まず親自身が偏見をもたず、差別をしない、許さないということを、子どもたちに示していくことが大切です。



## 子どもは親の姿を見て学んでいく

親に感謝し、親を思いやる心は、広く他人を思いやる心の基となる大切なものです。まず親が自らの祖父母を大切に作る姿を見せることを心がけましょう。

大人たちは、自らの親への接し方や、思いやりのある社会のために何が重要かについて、子ども自身から問われているのだということを考えましょう。



## いじめは人間として恥ずかしい行いだ

いじめは、力の弱い子どもや、まじめに努力する子ども、周りに安易に流されないため「異質」とみなされた子どもなどを標的にする卑怯な行いです。悪いのはいじめる子どもであって、「いじめられる側にもそれなりの理由がある」などということは全くの間違いです。

いくら軽い遊びや悪ふざけ、ジョークのつもりでも、いじめられる側の苦しみ痛みは深刻であることを理解させ、いじめることは、人間として決して許されないことであり、いじめをはやし立てたり傍観したりすることも同じである、ということを家庭の中できちんと話し合ひましょう。そして、自分の子どもがいじめをしているとわかったら、必ずすぐにやめさせてください。

また、いじめる子の中には、親から暴力や強いプレッシャーを受けるなど、家庭でも学校でも居場所がない子どもが多いと言われます。子どもが楽しめるものを見つけ、心が満たされるように配慮するなど、いじめをしない心の環境づくりをしましょう。

# 始めましょう 家庭で読書

いい本に出会うことは、  
いい人に出会うことに  
似ている。



一番すてきな本は、  
お父さん・お母さんの  
声で読む本だ。



子どもの読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造性を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身につけていく上で欠くことのできないものです

【子どもの読書活動の推進に関する法律の基本理念】

本を読む子を育てるためには、小さな時から本に親しむことが大切です。

感動的な一冊の本は、子どもの感性や情緒、想像力をはぐくみ、読書習慣を身につけるきっかけともなります。

始めましょう！ 家庭で読書！



# 親子読書のすすめ

親子のぬくもりを感じながら優れた絵本に接し、一緒に共感し合うひときは、子どもの感性や心を豊かにする貴重な時間になります。

「親子読書」は、子どもにとってうれしい時間の一つです。親子(家族)のふれあいを通して読書のすばらしさを次の世代に伝えていく、そんな「親子読書」を、始めてみませんか。



## 小学校低学年くらいまでは…

子どもたちに読書の楽しさを伝えるには、「読み聞かせ」がよいと言われています。絵本や物語はもちろん、昔話、なぞなぞ、ことばあそびの本など、多くのジャンルから本を選び、子どもの世界を広げてあげましょう。

## 親子読書の例 ～その1～

- 子どもを膝の上に乗せて一緒に絵本を読みます
- 眠る時に子どもの枕元でおはなしを読み聞かせます
- 子どもと一緒に声を出してことば遊びの本を楽しみます
- 地域の読み聞かせイベントに子どもと一緒に参加します
- 子どもと一緒に本を見ながら、料理を作ったり工作をしたりします

チェックしてみましょう



## 小学校中学年以上になったら…

読み物や物語の楽しさを味わったり、科学や社会の本への興味を深めたりするとよいと言われています。優しさや思いやりなどの豊かな心や、知る楽しさなどの知的な好奇心が育ってゆくでしょう。

また、周りの大人が読書を楽しむ姿を見せることも大切です。子どもと一緒に図書館や書店に行き、本を選んだりする姿を見せてあげてください。家族みんなで読書を楽しむ時間をもてるといいですね。

チェックしてみましょう

## 親子読書の例 ～その2～

- 子どもと一緒に図書館や書店に出かけます
- 1冊の本をそれぞれが読み、家族で感想を語り合います
- 家族で「読書の時間」を設けて、その時間にそれぞれが好きな本を読みます(ダウンメディアデーやノーメディアデーに合わせて、取り組んでみましょう)



## 家庭教育支援の推進に関する検討委員会報告書の概要

# つながりが創る豊かな家庭教育

～親子が元気になる家庭教育支援を目指して～

### 1. 家庭教育をめぐる現状と課題

#### 家庭教育をめぐる社会動向

- 1) 家庭環境の多様化や地域社会の変化
  - ・多様化する家庭が抱える様々な課題（経済的問題、児童虐待、過干渉や過保護）
  - ・自然な教育的営みが困難になった家庭生活の変化
  - ・子育て家庭の社会的孤立
- 2) 現代の子どもの育ちをめぐる課題
  - ・社会性や自立心等の育ち（不登校、暴力行為、ニート）
  - ・体験の格差や経済格差の子どもの育ちへの影響懸念
- 3) 家庭教育が困難になっている社会
  - ・家庭の教育力の低下と認識されているが、家庭は家庭教育に努力している傾向
  - ・親子の育ちを支える人間関係が弱まっており、社会経済も変動しており、「家庭教育の困難」と認識する必要
  - ・家庭教育が困難な家庭への支援は重要な社会的課題

#### 家庭教育支援の課題

- 1) 子の誕生から自立までの切れ目のない支援
  - ・乳幼児期は人間形成に重要だが、子育ての自信や対処能力が不足しがち、また自立の時期の支援も重要
- 2) 届ける支援（アウトリーチ）と福祉等との連携
  - ・課題を抱えた家庭が児童虐待等、課題が深刻化することのないよう、孤立しがちな家庭へ届ける支援が必要
  - ・困難な課題を持つ家庭には、専門的支援、福祉的支援のための支援のネットワークが必要
- 3) 多様な世代が関わり合う社会で、子どもの育ちを支える
  - ・コミュニケーション能力、自己肯定感等、不足しがちな力を育むための体験や交流機会が重要
- 4) 地域の取組の活性化
  - ・地域の課題に応じた取組の活性化や地域資源の活用

### 2. 家庭教育支援のあり方

#### 基本的な方向性

- 1) 親の育ちを応援する
  - ・発達段階に応じたかわり方についての学習が必要
- 2) 家庭のネットワークを広げる
  - ・子育て家庭の人間関係を広げていくことが重要
- 3) 支援のネットワークを広げる
  - ・地域人材と専門支援をつなぐ仕組みづくり

#### 重要な視点

- 1) 親の主体性を尊重し、支援の循環を生み出す
  - ・親の意欲を高め、支え合う
- 2) 子どもも家庭や社会の一員として役割を持つ
  - ・子どもの発達資産形成の観点から支援や協力が必要
- 3) 子育て家庭を支える人間関係とシステムを持つ地域づくり
  - ・地域コミュニティの創造と地域の活性化

### 3. 家庭教育支援の方策

- 1) 親の育ちを応援する学びの機会の充実
  - 親の育ちを応援する学習プログラムの充実
    - ・体験型・ワークショップ形式の学習
    - ・虐待予防に資する子どもとのコミュニケーションやストレスの対処方法及び震災後の心のケアなど社会的課題への対応
  - 多様な場を活用した学習機会の提供
    - ・子育てひろば等への学習プログラムの提供、ファシリテーター派遣などの乳幼児期の子育て支援の充実
    - ・学級懇談会等を活用した親の学び合い・共同学習
    - ・企業への出前講座、父親の学びと参画促進
  - 将来親になる中高生の子育て理解学習の推進
    - ・乳幼児との触れ合い活動
- 2) 親子と地域のつながりをつくる取組の推進
  - 家庭を開き、地域とのつながりをつくる
    - ・NPO等によるカフェ形式の交流の場や親子参加イベント
  - 学校・家庭・地域の連携した活動の促進
    - ・学校支援活動や放課後子ども教室に保護者等を巻き込む取組
- 3) 支援のネットワークをつくる体制づくり
  - 地域人材による家庭教育支援チーム型支援の普及
    - ・小中学校区等を単位としたチーム型支援の普及
    - ・活動拠点の提供や研修機会の提供等の環境整備
    - ・主任児童委員との連携によるアウトリーチ活動の充実
  - 課題を抱える家庭に対する学校と連携した支援の仕組みづくり
    - ・生徒指導等と連携した家庭への訪問や相談対応
    - ・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーとの連携
    - ・高校中退者の家庭に対する親の相談対応等
  - 人材養成と社会全体の子育て理解の促進
    - ・ファシリテーター等の養成、専門的助言、人材認証・登録
    - ・サポートの役割が期待される高齢者等の学びの機会の提供
    - ・企業による親子参加行事や職場体験活動への協力
- 4) 子どもから大人までの生活習慣づくり
  - ・企業と連携した生活習慣づくり
  - ・生活の自己管理が可能になる中高生向け普及啓発

### 4. 国と地方自治体の役割

- 市町村 家庭教育支援活動をコーディネート
- 国 基本的方向性を示し、取組の普及や向上を図る
- 都道府県 広域的ネットワーク構築、人材養成等
- 保健福祉等の関連分野と家庭教育支援の連携

## 家庭教育支援に役立つ情報リンク集

○文部科学省家庭教育支援サイトはこちら

「子どもたちの未来をはぐくむ家庭教育」 <http://katei.mext.go.jp/>

○子育てやしつけのヒントなど、知っておきたい家庭教育の知識はこちら

新潟県・家庭教育手帳 検索

「家庭教育手帳」 <http://www.pref.niigata.lg.jp/syogaigakushu/1199377208696.html>

○心豊かな子どもの育ち応援サイトはこちら

「そだちのヒント365」 <http://mobile.pref.niigata.lg.jp/m/syogaigakushu/1287608463905.html>

○親も子どもも健やかな生活は規則正しい生活から

「早寝早起朝ごはん」全国協議会 <http://www.hayanehayaoki.jp/>

## 家庭教育・子育て電話相談「すこやかコール」

新潟県教育委員会では、育児やしつけなど家庭での教育に不安や悩みを持つ保護者等が、気軽に相談できるよう電話及びFAXによる相談窓口を設置しています。

### 家庭教育・子育て電話相談「すこやかコール」

電話番号:025-283-1150

受付:月曜日～金曜日の午後1時から7時まで

上記以外の時間は、FAX相談:025-284-6019

※土・日・祝日、8/13～15、12/29～1/3、3/28～31はお休みです。



子育ての悩みをかかえている方、ご相談ください。

家庭教育・子育て電話相談  
**すこやかコール**

**025-283-1150**

相談時間 月曜日～金曜日 午後1時から7時まで  
上記以外の時間はFAXで受け付けます FAX:025-284-6019  
土・日・祝日、8/13～8/15、12/29～1/3、3/28～31は休みです。

子育てを応援します「家庭教育手帳」<http://www.pref.niigata.lg.jp/syogaigakushu/>

友だち関係・育児・しつけ・生活習慣の悩み等  
子育てに関することをご相談ください。

こんなことで悩んでいませんか?  
一人で悩まず、お電話してください。

自分の子育てに自信がもてなくて不安です。

友だちとのトラブルが多くて落ち意きもないし心配です。

最近、子どもとの会話が少なくて、どう接したらいいか困っています。

<プライバシーはかたく守られます>  
新潟県立生涯学習推進センター



【発行】新潟県教育委員会・新潟県地域家庭教育推進協議会  
〒950-8570 新潟県新潟市中央区新光町4番地1  
新潟県教育庁生涯学習推進課  
TEL 025-280-5617  
FAX 025-284-9396